

特色ある読書推進活動の紹介

【二本松市 第5回えほんフェスティバル】

訪問日：令和元年6月23日（日）10：00～15：00

場 所：二本松市安達公民館

内 容：えほん広場、おはなし広場、移動図書館展示、工作コーナー等

二本松市では、次代を担う子どもたちを健やかに育てるために、子どもの読書活動の推進に取り組んでおり、「としょかんまつり」「おはなし会祭り」など様々なイベントが開催されています。今回訪問させていただいた「えほんフェスティバル」もその一環として行われました。

フェスティバルに先立って、二本松市在住の3・4才児に絵本を贈る「ブックステップ事業」の贈呈式が行われ、丹野教育長より代表の2人のお子さんに絵本が贈呈されました。「ありがとうございます！」という大きな声とともにとび跳ねている男の子の姿を、笑顔で見守るご両親の姿が印象的でした。

会場内には、大型絵本やとび出す絵本など、子どもたちが思わず手に取りたくなる魅力的な絵本がコーナーごとに数多く展示されていました。海の生き物や魚をテーマにした絵本の近くには工作コーナーが設けられており、訪れた多くの子どもたちが本を見ながら自分だけの海の生き物を夢中になって描いていました。

また、「この本、読んで！」とかけ寄ってくるお子さんに、じっくりと読み聞かせをしているお父さんの姿など、会場のいたるところで、親子いっしょに本に親しむ姿が見られました。



おはなし広場では、二本松市内の5つの読書ボランティア団体の方々による読み聞かせや昔ばなし、ペープサートなどが行われました。

温かい語り口調の昔話。かわいらしい絵で描かれた手作りの大型紙しばい。美しい歌声とともに演じられるエプロンシアター……。それぞれの団体による特徴ある読み聞かせにより、あちらこちらでつぶやきや笑顔が見られ、子どもたちがお話の世界に引き込まれていました。

この日は、お子さんとその保護者の方を合わせて170名の方が来場したそうです。家族連れで訪れた方も数多く見られました。

「3才の娘は絵本が大好きです。自分もその脇に座って読書を楽しんでいます。」と話すお父さんの笑顔に、これまでの市の取り組みが、親子の絆も深めていると感じました。

【読書ボランティア団体のみなさん】

- 三島の里民話の会（昔ばなし）
- 児童図書研究グループ「トトロ」
（エプロンシアターほか）
- 川崎小おはなし紙ふうせん（大型絵本）
- 岩代図書館ボランティアおはなしタンポポ
（ペープサート）
- おはなし玉手箱（大型紙しばい）

